

生活新聞

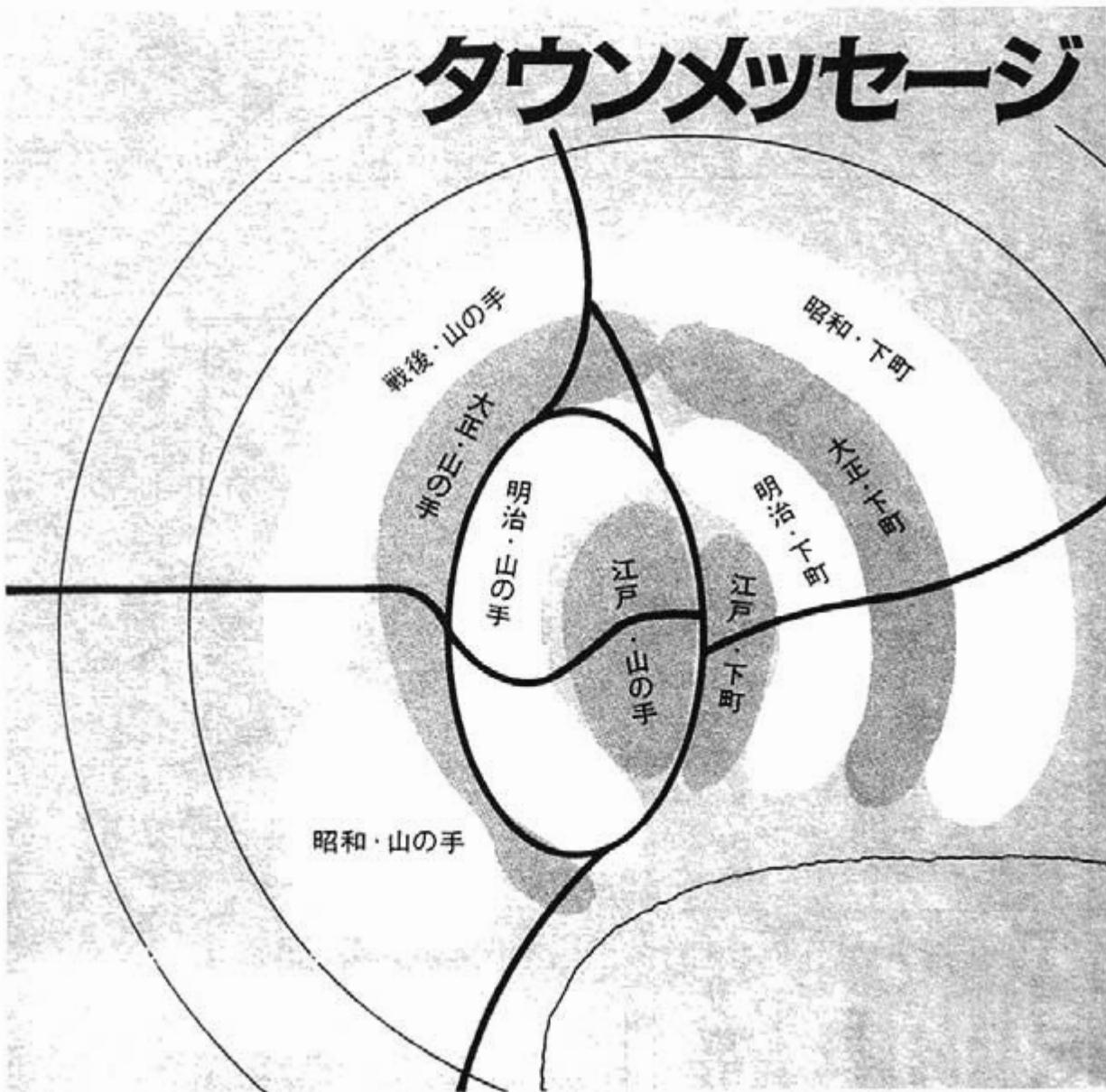
H Hakusho Institute of Life & Living

3・29

VOL.5 1985 No.5

——街の記号変化——

タウンメッセージ



東京の街イメージは「時空間記号」の集積だ。

街の性格を言い表わすのに、住む人々の気質的な違いまで含んだ「山の手・下町」があります。しかし、江戸・明治・大正・昭和と受け継がれてきたこの区画は大きな変貌に飲み込まれ、その性格付けは甚だ不分明になりました。そこで今回は「現代の山の手・下町はどこにあり、どんな街と思われているのか」を探ってみました。詳しい調査結果は次の見開きを見ていただくとして、まず「山の手・下町」の基本的なおさらいをしてみましょう。

地形的記号としての山の手・下町

K.Lynehは「都市のイメージ」で、都市のイメージを形成する要素として次の5つを挙げています。

- ①path 沿って移動する(道路・運河・鉄道など)
- ②landmark 目印になる(建物・看板・山など)
- ③edge 線・境界になる(海岸・川・壁・崖など)
- ④node 集中・接合場所(交差点・広場・大きな駅など)
- ⑤district 塊・面としての地域

この要素は、都市を見る人によって入れ変わります。水運に携わる人にとっては川はpath、歩く人にとってはedgeです。橋はpathでもあり、landmarkでもあります。橋のたもとに船着き場や道路が集まればnodeです。その一帯が川や運河で結ばれて水郷とか水の都といったdistrictを形成します。

東京は複雑に入り組んだ武蔵野の洪積台地と利根川の沖積低地に、江戸時代からの埋め立て地が加わったものです。境内に約20mの崖を持つ台地と低地の間は坂で結ばれます。山の手・下町は坂をはさんだ上下の集落を現わす地形的な呼称です。上の集落である山の手を外れればそこはもう郊外です。

坂は山の手と下町のpathであり、districtを分けるedgeです。江戸の昔から山の手のlandmarkは坂、下町のlandmarkは橋と川でした。この単なる地形上のdistrictを超えて、山の手風とか下町情緒といったイメージまで形成されてきた過程を探るに

は歴史的背景に触れなければならないでしょう。

山の手・下町的風土の歴史的成り立ち

江戸から東京へ 江戸が都会としての体裁を整えたのは慶長8年(1603)の開府から。「慶長見聞集」には「慶長八卯の年、日本六十州の人歩を寄せ、神田山を崩し南の海を四方三十余町埋めさせ陸地となし、その上に在宅を立給ふ。この町のはか家居続々広大なる事、南は品川、西は田安の原、北は神田の原、東は浅草まで町続きたり」とあります。台地上(山の手)には江戸城を取り囲んで武家屋敷が定められ、下町は町方の住む所、台地の外れにある江戸城の文字通りの城「下町」でした。江戸は居住、経済空間の定められた計画都市だったのです。

山の手・下町という言葉が初めて史料上現われるのは寛文2年(1662)。「江戸学事典」によれば江戸時代の下町とは「ほほ神田・日本橋・京橋を中心とした地域で、下町=江戸という概念もあった」ようです。文化11年(1814)に書かれた「塵塚談」には、神田や日本橋に行く時を白山・牛込辺の人は下町へ行くと言い、浅草辺の人は江戸へ行くと言ったとあります。維新までは山の手も浅草も市街地の中心である下町に対して郊外扱いされてきました。

維新から大震災へ 江戸から東京と変わっても、山の手の武家屋敷跡は政治家や高級官吏の住宅街に、下町は商店・工場の混じる庶民の町にと、居住者とその経済活動はそのまま受け継がれました。

明治30年(1897)の地図を見ると、市街地化しているのは下・中・上渋谷村を通り、内藤新宿、角筈村、池袋村から十条村に抜ける品川鉄道(後の山手線)の内側1~1.5kmまでで、鉄道との間は軍用地、皇室用地、公共用地等で建物の密集地といつdistrictでこの時点の郊外・山の手・下町の区分を見ると、前者のedgeは品川鉄道以東1~1.5kmの線、後者のedgeは皇居を南北に貫く線に引かれているようです。

古いもののシブさ・ダサさが魅力的な「遊枯」現象。

ハイテクな中にハイタッチの温もりを求める都市。東京で今年、注目を集める街はダウンタウンリバーバルに燃える下町の代表選手“浅草”でしょう。でも一体、下町って何だ?そして山の手って何だ?

木造賃貸アパートが建てられました。

この程度の宅地化では影れ上かる東京の人口と、戦後の復興・安定に伴なうマイホーム欲求を満たしきれず、団地を含めた新興住宅街が都心から半径20~30kmを取り巻いています。さすがにこの距離では山の手とは言えず、郊外と呼ばれます。

高度成長から現在へ 昭和35年(1960)の「所得倍増計画」をもって、日本の高度成長はスタートしました。「中流」の暮らしを日々する人々の上昇指向と「隣に遅れるな」という横並びの人並み意識は、さらにマイホーム欲求を煽ります。都心から30~40kmを隔てた大規模な郊外化の始まりです。

高度成長期は下町にあった中小自営の工場が大企業の下請けや関連会社に取り込まれて行く時期でもあります。生産設備の拡大更新を機に、住宅が車で30分くらいの所に移動します。ここで初めて下町族は職住一致あるいは近接の商人・職人型から通勤を伴なうサラリーマン化しますが、生活スタイルは旧来の下町風を受け継ぐ“昭和下町”です。

都心から40~50km離れた郊外農業圏でも生活スタイルや通勤移動を伴なわない兼業農家化、サラリーマン化が始まります。この“ニューヨーカル”族の先駆農地が、その後も続くマイホームを求める人々を吸引します。「階層消費時代」にいる首都圏農家であるニューヨーカル族の経済的優位性は、都心を離れること50kmにしてやっと多額のローン付きマイホームを得たニューブル族を圧倒します。

單に地形上の違いにすぎなかった「山の手・下町」は、武家と町人という居住者の“住まされ分け”的歴史に端を発して、支配と商工サービス、ハイカラと伝統、職住分離型住宅地と職住未分化型生産流通地、革新性とふるさと性、クールと人情、職業・学業的と地縁・血縁的、社会を動かすものと支えるものというイメージまでを形作ってきたわけです。

タウンを人にたとえてみれば…

同じ山の手の街であっても、新宿と渋谷では、どこか違うと思います。
東京10ヶ所の持つイメージをきいてみました。その一部をご紹介します。

男度83% おとこ街・上野。

男性イメージの強い街は、①上野
②新宿③池袋④浅草の順。とりわけ上野は全体の8割強が「男街」と答えています。年代イメージでいえば上野は50代と答えられています。繁華街らしく「ホット」「活気がある」という性格を有していますが、男街うしさも顕著です。ワケの人が「品が悪い」というイメージを抱いている反面、8割が「親しみのある」街だと思っています。

上野		
	%	N=1000
ホット	70	30 ワール
ノンビリ	48	52 セカセカ
品の良い	25	74 品の悪い
親しみのある	80	20 気取った
チアフル	51	48 ネクラ
る気がある	63	37 活気がない
やさしい	41	58 こわい
力強い	60	40 鮮やか

女度74% おんな街・原宿。

女IIファッショニスト好きII原宿という公式があるかのように、原宿は女街だと答える人がワケ割もいます。他にも女街として、青山・銀座・下北沢があがっていますが、10代の街というイメージがワケ割を占める原宿は、東京で一番キャビンアビしている街だといえます。女性比率は76%と10地点中最高。週末の雑踏の中から聞こえてくる若い娘の嬌声を表わした数字になっています。竹下通りのクレープ屋台は品が良いとはいえないけれど、おしゃれだし、街が受け入れてくれるやさしさを持っています。人情という意味でのホットさには欠けるけれど、ティーンがわざわざやってくるハレの場のバブル街は熱くなっているのです。

原宿		
	%	N=1000
ホット	66	33 ワール
ノンビリ	51	49 セカセカ
品の良い	59	41 品の悪い
親しみのある	56	44 気取った
チアフル	76	24 ネクラ
る気がある	61	39 活気がない
やさしい	72	28 こわい
力強い	54	46 鮮やか

男度45%女度53% アンドロ街・渋谷。

男と女のイメージをほぼ半分ずつ持つアンドロタウン（アンドロジナスの街）としてあげられたのが、渋谷と吉祥寺。渋谷の行動イメージとして「歩いている」が46%を示しているのは、街の居心地の良さを表しているといえます。学生街でもあるので週末でなくとも公園通りは人通りが断えません。だから「セカセカ」した感じがするけれど、それは「活気がある」からです。

渋谷		
	%	N=1000
ホット	51	39 ワール
ノンビリ	34	66 セカセカ
品の良い	64	36 品の悪い
親しみのある	67	33 気取った
チアフル	73	27 ネ克拉
る気がある	63	37 活気がない
やさしい	61	39 こわい
力強い	61	39 鮮やか

上記調査概要は中ページと同様。他地点については、生活特報をご覧下さい。

下町は駄菓子。山の手はレモンケーキ。郊外はアップルパイ。何となくわかるね、街の記号。——これが、タウンメッセージだ。

キ。郊外はアップルパイ。
これが、タウンメッセージだ。

街にも、人と同じように、性格があります。そして、その性格を分類するためには、下町とか山の手とか郊外という言葉をよく使いますね。誰

「うーん、まあ、いいや。」と、私はまた、思ひ立たぬ仕事の心地悪さを想起します。また、思い浮かべるイメージがあるはずです。でも、それが、他の人にどうでも、共通の場所や意味を示しているのかとなると、少々疑問です。「私の住んでいるところ？ 下町だと思うわ。だって、商店街が本当にグサインなもの。野菜でもトイレットペーパーでも、何でも道にはみ出して並べちゃうんですよ。それに、買い物している人達も、いかにもオバサンっていう感じだし……」これは、板橋に住むヤングミセス（26歳）の言です。また、こんな意見もあります。「下町って、『浅草』っていう

町だとは思わない。情緒がないからな。」(男30歳)
どうやら、イメージも場所も、人によってかなり異なっているようです。そこで、男女計千人の方に次のような質問に答えていただきました。

(質問1) 下町、山の手、郊外とは、具体的にどの地域を示すのか。
(質問2) その地域を差別化する要素(つまり記号)は何なのかな。

さてます、どの地域を、下町や山の手や郊外と思うか、についてですが、一言いえば、人によって、かなり

分散している”ことがいえます。一人一人に下図のように書いていただいたものを集計して作成したのが、

本領の地図です。骨の意見を含成す
ると、下町も山の子もかなりの広が
りをもつていることがわかります。
下町ゾーンとしては、中年、若者共

に、あまり大きな違いはみられません。下町スホット(特に選ばれた率の高い地域)に浅草が含まれるのも共通です。二五は、下町スホットの第一章

に、「浅草」の地名が出てきた」とからもうなずける結果です。若者と中年の違いは、中年が、亀戸など総武

桜方向にも下町スポーツを位置づけている点などいえるでしょう。

窪、京王線でいえば千歳烏山、小田急線なら喜多見、新玉川線なら一子玉川、東横線では多摩川園までが含まれるところです。山の下駄(ハサフ)、

含まれるわけです。山の下では、とも原宿・渋谷あたりを中心とする地域の他に、田園都市線や新玉川線のイメージについて、西スポットが確

立されているようです。沿線イメー
ジ作りの強さをみる思いがしません
か。もしかしたら、山の手が多摩川を
越える日も近いかも知れませんね。

郊外は、どうやら東京都でいえば、23区以外ということになりそうですが。しかしながら西荻窪は、移並

区なのにもかかわらず、郊外に入れられてしまっていますし、練馬区も、西武池袋線の石神井公園・大泉学園あたりからが、郊外の中間入りを

街のアイデンティティは、H-S三角形で作られる。しているようです。

さて次は、人々の心の中で下町とか山の手とか郊外というものが、どのように意味づけられているかをみてみましょう。つまり、記号論的に言えば、各々の街のアイデンティティというべきものが、どのような記号によつて作られ、差別化されているかということです。

図1をご覧下さい。山のアイデンティティの構成要素として、ハードの記号、ソフトの記号、そして、その二つの記号から作られるイメージの記号があると考えられます。

ハートの記りとは、入れものの血りつまり、自然環境や街並み、建物などの要素を意味します。また、ソフトの記りとは、その街に住んでいる人の気質やタイプ、あるいは、その街の伝統的な行事などの要素を意味します。そして、そのハートの記りとソフトの記りで作りあがれたのがイメージの記りです。街の雰囲気や、情報などによってつくられる要素ということです。この三つの記りが組みあつて、街全体のアイテムを作りあげていると考えることができるわけです。下町・山の手、郊外という地域のアイテムも同様に考えることができます。

の記号の分類

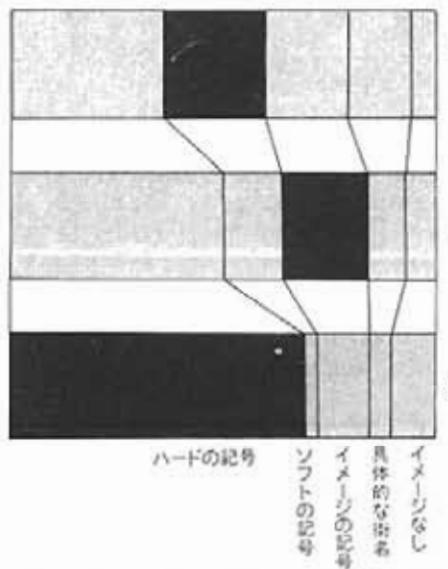
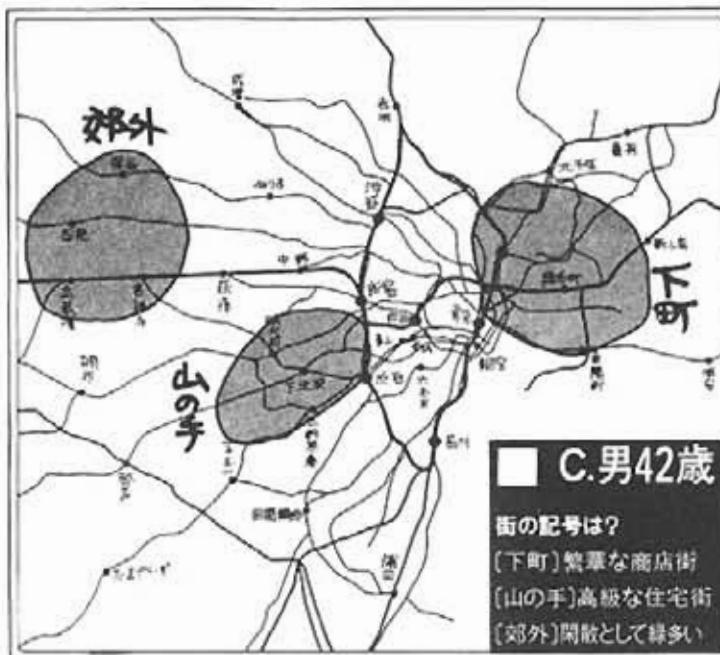
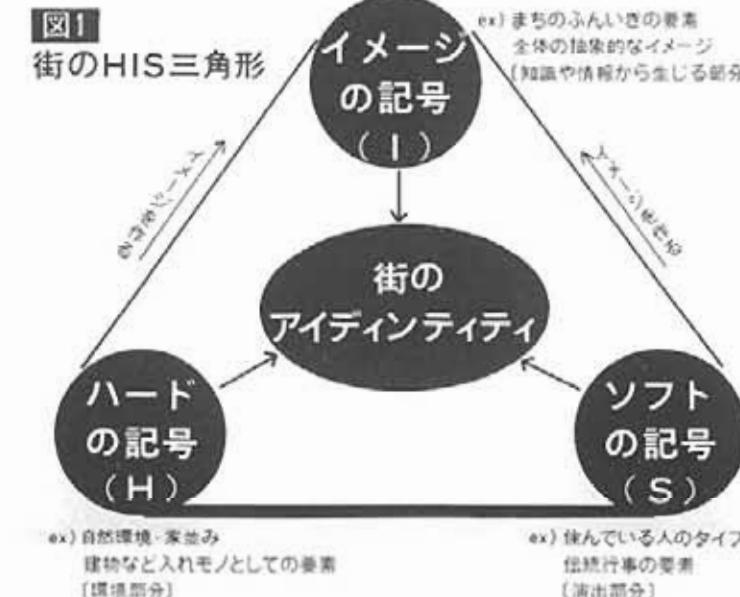


图2



A map of the Tokyo metropolitan area showing various districts. The map includes labels such as '郊外' (Suburbs) at the top, '下町' (Nakachō) on the right, '山の手' (Yamashita) in the center-right, and '中野' (Chūō) in the center. Shaded regions represent different areas: a large dark gray area labeled '高級' (High-class) covers the northern and western parts; a medium gray area labeled '中級' (Medium-class) covers the southern and eastern parts; and several small circular gray areas labeled '低級' (Low-class) are located in the central and southern parts. A legend box in the bottom right corner contains the text 'A.男21歳' (A. Male 21 years old) above the question '街の記号は?' (What is the symbol of the city?). Below the question are three options: '(下町) 海抜が低い' (Nakachō: Low altitude), '(山の手) 海抜が高い' (Yamashita: High altitude), and '(郊外) 東京駅から離れて' (Suburbs: Far from Tokyo Station).

図1
街のHIS三角形



ヒトの下町、イメージの山の手、そして、ハードの郊外。では、下町、山の手、郊外は、それぞれ具体的に、どのような言葉で語られているのでしょうか。以下、実際の回答例を紹介しながら考察をすすめることにしましょう。具体例は、上から順に、「下町」—「山の手」—「郊外」を示します。

(街の記号)自由回答の結果を分類したもの。()内は回答者人数。			
	ハードの記号	ソフトの記号	イメージの記号
下町	家と家が密集(42)古い家(40)川(39)ゴチャゴチャした街並(35)商店街が多い(31)土地が低い(21)平家(21)寺(19)工場(15)狭い(15)スマッグ(12)	人情(109)お祭り(35)緑日(28)江戸っ子(20)人が多い(16)おかみさん(15)年寄り(12)気楽な人(6)寅さん(6)ゲタばき(5)職人(5)労務者(2)寄席(1)	活気がある(38)伝統がある(37)にぎやか(35)気取りがない(30)庶民的(30)下級(10)品がない(10)静けさ(4)アンバランス(3)
山の手	高級住宅地(120)住宅街(39)ビル街(38)品のよい街並(38)高台・丘(32)山の手線が走っている(30)大きい門のある家(21)高級マンション(21)坂がある(19)	有名人(36)金持ち(20)人は人、自分は自分という人(14)クールな人(13)上流階級(8)近所づきあいがない(8)奥様(8)お嬢さま、お坊ちゃん(7)色々な人がいる(6)	静かでのんびり(53)気どっている(34)高級(17)落ち着いている(16)優雅(12)整然としている(10)物価・土地が高い(10)ゆったりしている(6)せわしい(5)都会的(5)
郊外	緑が多い(132)自然(105)田畠(52)山・川・小川(26)きれいな空気(26)遠い(21)空地(19)団地(18)新興住宅街(14)庭付きマイホーム(13)太陽がいっぱい(12)	人口密集地(7)田舎者が多い(6)人がこせこせとしていない(2)中流階級(2)サラリーマン(2)金持ちは(1)地方出身者(1)つっぽり高校生(1)	のどか、ひっそり(17)23区外(11)静かで寂しい(9)武蔵野のおもかげ(8)地方(7)都下(6)中級(6)発展しつつある(4)のんびりした町(4)ゆとりがある(4)

以上のように、一種類の記号で比較している人はかりではありません。むしろ、ハード、ソフト、イメージといったそれぞれの記号が交じり合つてできているの方が大勢います。たとえば、「おまつり」—「お大臣」—「所ジョージ」(女18歳)、「エプロン姿のおばさん」—「ハイヒールをはいた奥様」—「きれいな空」(女41歳)といった具合です。

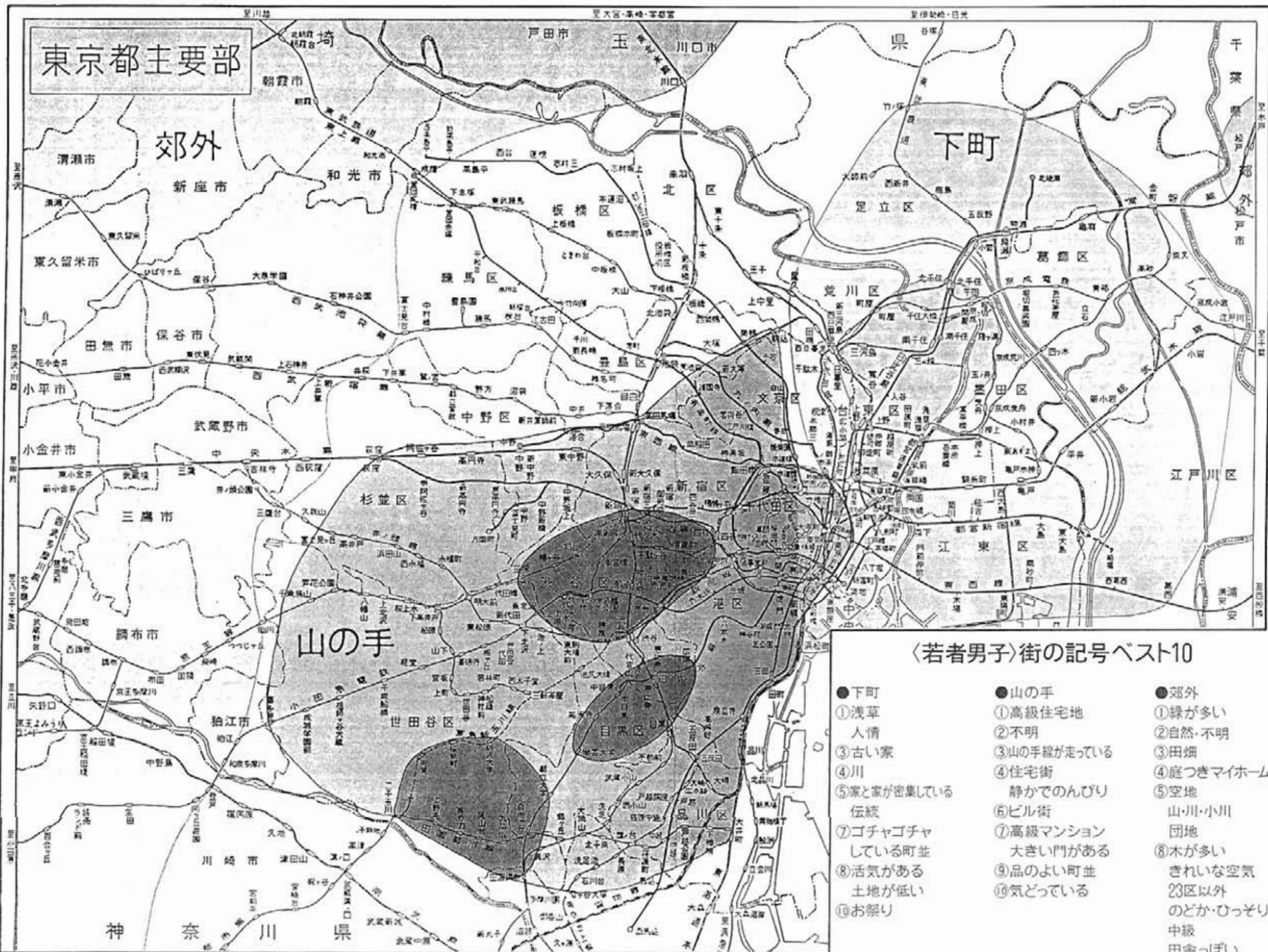
図2は、記号としてあげられたものを、ハード、ソフト、イメージの三種類の記号に分けてみたものです。ご覧のように、下町ではソフト、山の手ではイメージ、郊外ではハードの要素が強いといえます。

また、記号として何も挙げることのできなかつた人が、下町では51人、山の手では70人、郊外では師人もいました。現在の東京人にとっては、下町→山の手→郊外の順にアイデンティティ度が高いというわけです。

▶調査概要 地点:渋谷、新宿、池袋、銀座、原宿、青山、上野、吉祥寺、下北沢、浅草の10地点。手法:街頭面接調査。対象者:16~49才男女。サンプル数:1,000人。実施期間:1985年2月15日~20日。▶調査結果についての詳細については、生活特報を発行予定。

付録①〈若者男子〉ゾーンマップ

(注)図中の薄い色のところは、下町、山の手、郊外として選ばれた地域(ゾーン)。濃い色のところは、それの中でも特に選ばれた市や高い地域(スポット)を示しています。

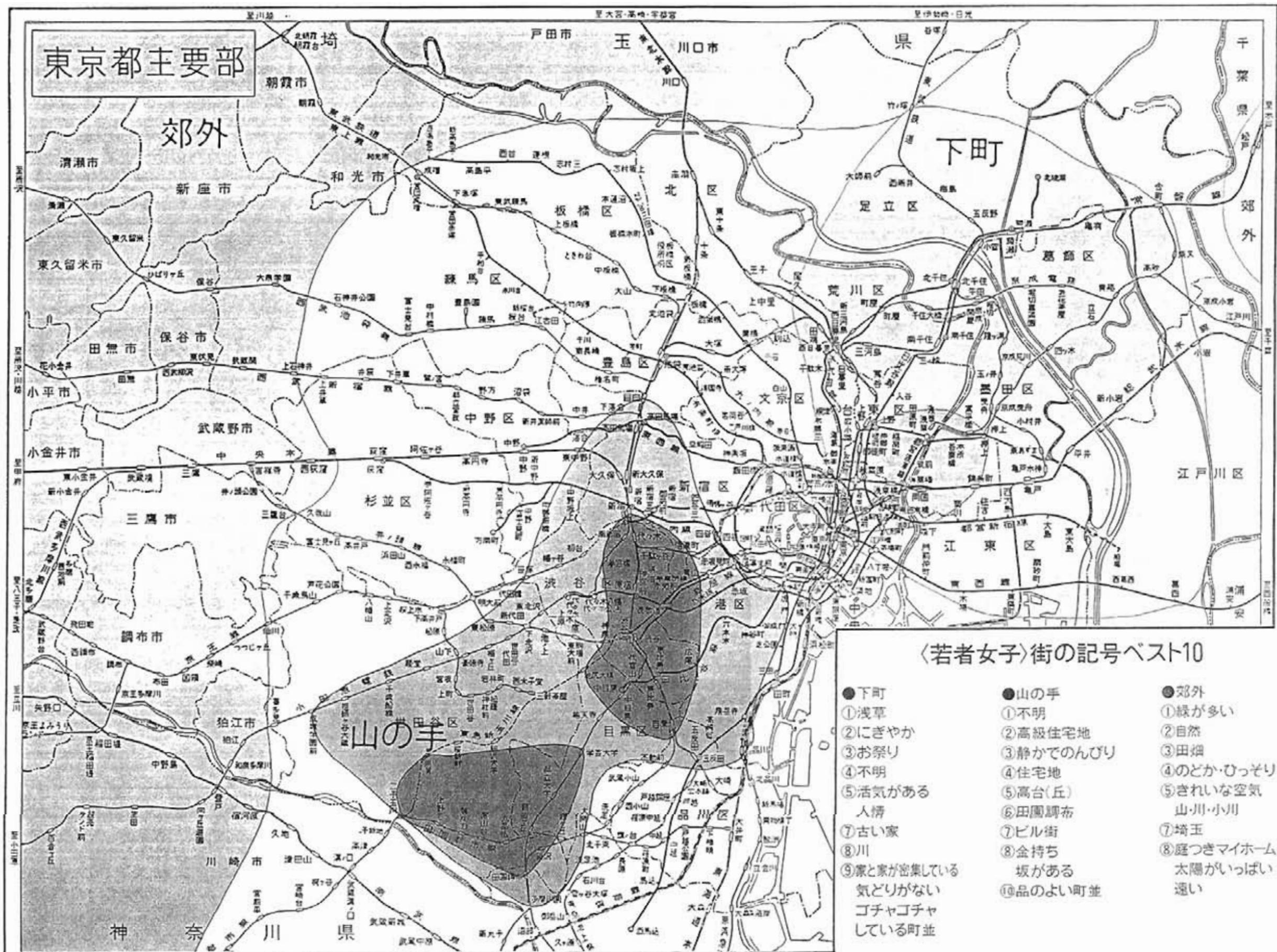


〈若者男子〉街の記号ベスト10

- | | | |
|-------------------|---------------------|-----------|
| ●下町 | ●山の手 | ●郊外 |
| ①浅草
人情 | ①高級住宅地 | ①緑が多い |
| ②不明 | ②自然・不明 | ②自然・不明 |
| ③古い家 | ③山の手線が走っている | ③田畠 |
| ④川 | ④住宅街 | ④庭つきマイホーム |
| ⑤家と家が密集している
伝統 | 静かでのんびり | ⑤空地 |
| ⑥ビル街 | ⑥ビル街 | 山・川・小川 |
| ⑦ゴチャゴチャ
している町並 | ⑦高級マンション
大きい門がある | 団地 |
| ⑧活気がある
土地が低い | ⑧品のよい町並 | ⑧木が多い |
| ⑨お祭り | ⑩気どっている | きれいな空気 |
- 23区以外
のどか・ひっそり
中級
田舎っぽい

付録②〈若者女子〉ゾーンマップ

(注)図中の薄い色のところは、下町、山の手、郊外として選ばれた市・高い地盤(スロープ)を示しています。



付録③〈中年男性〉ゾーンマップ

(注)図中の薄い色のところが、下町、山の手、郊外として選ばれた地域(ゾーン)。濃い色のところは、それの中でも特に選ばれた市の中の高い地域(スポット)を示しています。



〈中年男性〉街の記号ベスト10

- | | | |
|---------|----------|--------------|
| ●下町 | ●山の手 | ●郊外 |
| ①人情 | ①高級住宅地 | ①不明 |
| ②浅草 | ②静かでのんびり | ②緑が多い |
| ③古い家 | ③品のよい町並 | ③自然 |
| ④不明 | ④気取っている | ④きれいな空気 |
| ⑤庶民的 | 有名人 | ⑤田畠 |
| 家と家の密集 | ⑥住宅街 | ⑥団地 |
| 伝統 | ⑦高級マンション | ⑦遠い |
| ⑧気どりがない | 高台(丘) | ⑧新興住宅街 |
| ⑨品がない | ⑨邸宅 | ⑨空地 |
| 江戸っ子 | 不明 | 埼玉
山・川・小川 |

付録4〈中年女性〉ゾーンマップ

(注)図中の薄い色のところが、下町・山の手・郊外として選ばれた地域(「ゾーン」)。薄い色のところは、それの中でも特に選ばれた車の高い密度(「スポット」)を示しています。

